

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

# SUBSCRIPTION CONCERTS

2023

9

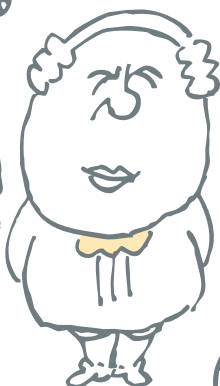
SEP

第 753 回  
東京定期演奏会

W. A. MOZART



J. S. BACH



YAMADA  
Kazuki



W. WALTON



サントリーホール  
2023年9月1日(金) 19:00  
9月2日(土) 14:00

日本フィルハーモニー交響楽団

## 2023-24年シーズン開幕ご挨拶

2023-2024シーズンの開幕でございます。

コロナ後の新しい世界を迎えようとしている、このシーズン。なんととっても注目目は新首席指揮者に就任したカーチュン・ウォンがどのような音楽づくりをするかです。アレクサンドル・ラザレフ、ピエタリ・インキネンのもと培ってきた日本フィルの音楽的基盤にどのような化学変化を起すのか、興味が膨みます。

カーチュン×日本フィルのひとつ目の柱となるのはマーラーです。2016年グスタフ・マーラー国際指揮者コンクールで優勝し、彼の人生を大きく変えたという第3番を10月の首席指揮者就任披露演奏会に。そして2024年5月には、マーラー最晩年の傑作であり、難曲といわれる第9番の深淵な世界に挑みます。ふたつ目の柱はアジアの音楽です。1月はインドネシアの「ガムラン」からインスピレーションを得た東南アジア、そしてフランスの音楽を、カーチュン特有の切れ味のいいリズムでお楽しみいただけるに違いありません。

また12月にもアレクサンドル・ラザレフに替わりカーチュンが登場します。先陣たちへの想いをこめたプログラム。故外山雄三さんを悼み「交響詩《まつら》」「伊福部昭：オーケストラとマリimbaのための《ラウダ・コンチェルタータ》」「シヨスタコーヴィチ：交響曲第5番」をお届けします。首席指揮者としての覚悟を感じられる演奏会にご期待く

# C CONTENTS

目次



©KY\_approved

❖ プログラム	4
❖ 出演者プロフィール	6
❖ プログラム・ノート- 等松 春夫 -	7
❖ 写真プレイバック- 2023年6、7月 -	10
❖ 第九特別演奏会2023	16
❖ あらゆる人々へ、あらゆる世代へ、あらゆる地域へ、世界へ	12
❖ 2023年秋季セット券	13
❖ 感動の共有 ～ご支援のお願い～	19
❖ 日本フィルハーモニー交響楽団 特別会員ご芳名	20
❖ パトロネージュご芳名	24
❖ Member's TVU CHANNEL 配信一覧	26
❖ 新入団員紹介	27
❖ 次回東京定期演奏会 指揮者にインタビュー カーチュン・ウォン編	28
❖ インフォメーション	30
❖ 公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 名簿	31

# JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA 753rd SUBSCRIPTION CONCERTS

日本フィルハーモニー交響楽団  
第753回 東京定期演奏会



サントリーホール Suntory Hall

2023年9月1日(金)午後7時開演 / 2日(土)午後2時開演  
7:00p.m., Friday, 1st & 2:00p.m., Saturday, 2nd September, 2023

感染予防のご案内

詳しくはこちらを  
ご覧ください▼



主催 / 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団  
協賛 / 鹿島建設株式会社 三井不動産株式会社

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金  
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))  
独立行政法人日本芸術文化振興会

表紙イラスト / 小澤 一雄

演奏中のマナーにご協力をお願いいたします。

■ 演奏会をお楽しみいただくために  
演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。また手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声などで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

■ 電源OFF

アラームOFF 電源OFF



■ 声と拍手にご注意を

私語 せき



■ 周囲にご配慮を

身を乗り つかの広い/  
出さない 高さのある帽子



■ 音にご注意を

ビニール袋 鉛の袋 マジックテープや  
ファスナーの音 鈴などアクセサリ  
がついたストラップ 補聴器の音



■ 撮影禁止

録音禁止 録画禁止 演奏中の  
写真撮影禁止



モーツァルト: セレナード第13番  
《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》 K.525 約16分

Wolfgang Amadeus MOZART: Eine kleine Nachtmusik in G-major, K.525

J.S.バッハ(齋藤秀雄編曲): シャコンヌ 約17分

Johann Sebastian BACH (Arr. By SAITO Hideo): Chaconne

休憩(15分) Intermission

ウォルトン: 戴冠式行進曲《宝玉と勺杖》 約7分

William WALTON: Coronation march "Orb and Sceptre"

ウォルトン: 交響曲第2番 約28分

William WALTON: Symphony No.2

指揮: 山田 和樹  
Conductor: YAMADA Kazuki



コンサートマスター: 扇谷 泰朋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]  
Concertmaster: OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ: 門脇 大樹 [日本フィル・ソロ・チェロ]  
Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

\*この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムを用意しております。ご要望の方は主催者までお申し出ください。



# Conductor

指揮

山田 和樹

YAMADA Kazuki



©Zuzanna Spezial

2009年第51回ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。同年、ミシェル・プラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮して以来、破竹の勢いで活躍の場を広げている。2012年～2018年スイス・ロマンド管弦楽団の首席客演指揮者、2016/17シーズンからモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督、2023年4月からバーミンガム市交響楽団の首席指揮者兼アーティストリックアドバイザーに就任。日本では、2022年8月まで日本フィルハーモニー交響楽団の正指揮者を務め、現在では読売日本交響楽団首席客演指揮者、東京混声合唱団音楽監督兼理事長、学生時代に創設した横浜シンフォニエッタの音楽監督としても活動している。

東京藝術大学指揮科で松尾葉子・小林研一郎の両氏に師事。出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、実行委員会代表を務めた『柴田南雄生誕100年・没後20年 記念演奏会』が平成28年(2016年)度文化庁芸術祭大賞、日本フィルハーモニー交響楽

団と3年に亘り行った『山田和樹 マラー・ツィクルス』が第67回(2017年)芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞多数。2022年には、モナコ公国からシュバリエ文化功労勲章を受章。キングレコード、オクタヴィア・レコード、PENTATONE、EXTON、日本コロムビア(DENON)などから多くのCDを発表している。著述に『「超」音楽対談 オーケストラに未来はあるか』(対談・アルテスパブリッシング刊)、『「自由」の危機 一息苦しさの正体』(論考集・集英社新書)などがある。本質に迫るとともにファンタジーあふれる音楽づくり、演奏家たちと一体になって奏でるサウンドは、音楽の喜びと真髄を客席と共有し熱狂の渦に巻き込む。名実ともに日本を代表する人気マエストロである。はだのふるさと大使。ベルリン在住。

公式twitter @yamakazu\_takt

## プログラム・ノート 解説:等松 春夫

いまや名実ともに日本を代表する指揮者の一人となった山田和樹。この4月に英国のバーミンガム市交響楽団の首席指揮者に就任し、6月の日本ツアーを成功裡に終わらせた。モーツァルトは山田氏が音楽監督を務めるモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団とコロナ明けに初めて演奏した、クラシック音楽の代名詞のような佳曲。齋藤秀雄編曲のバッハは日本人と西洋音楽の邂逅を象徴する作品。そしてウォルトンは氏の新しいホームグラウンドである英国が生んだ作曲家。山田氏が持つ多彩な引出しを楽しめる演奏会である。

### ■ モーツァルト:セレナード第13番《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》K.525

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)の名刺代わりの一曲。1787年に作曲された歌劇「ドン・ジョヴァンニ」と同時期の作品で、暗い情念が支配する歌劇とは対照的に、明朗な楽想に溢れている。弦楽四重奏にコントラバスを加えた編成のために書かれたが、現在では弦楽オーケストラにより演奏されることが多い。

第1楽章 アレグロ、ト長調  
第2楽章 ロマンツェ:アンダンテ、ハ長調  
第3楽章 メヌエットとトリオ:アレグレット、ト長調(トリオは二長調)  
第4楽章 ロンド:アレグロ、ト長調

楽器編成:弦楽5部

### ■ J.S.バッハ(齋藤秀雄編曲):シャコンヌ

ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685-1750)の《無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 二短調BWV1004》の終楽章(シャコンヌ)を、齋藤秀雄(1902-74)が学生オーケストラの教育用に編曲したもの。齋藤はチェリスト・指揮者・音楽教育者で指揮法の「齋藤メソッド」の考案者。子供のための音楽教室(後に桐朋学園大学へ発展)の創立メンバーで、小澤征爾、秋山和慶、山本直純、飯守泰次郎らを育てた。バッハの(シャコンヌ)を名ピアニスト、フェルッチョ・ブゾーニ(1866-1924)が独奏ピアノ用に編曲しており、齋藤の編曲はこの版を基本にした。標準的な2管編成を用いて近代オーケストラの持つ多彩な表現の発揮に成功している。1951年12月11日に日比谷公会堂で齋藤自身が東京交響楽団を指

揮した記録がある。

シャコンヌとは、繰り返される低音主題に基づく変奏曲形式の舞曲。バッハの(シャコンヌ)は4分の3拍子。8小節の荘重な主題に31の変奏が続く(4小節の主題に63の変奏が続く、との解釈も可能)。齋藤はブゾーニ版を参照しつつも、原曲を忠実に編曲しており、主題および第1変奏～第16変奏前半が二短調、第16変奏後半～第25変奏が二長調、第26変奏～第31変奏が二短調、という構造は原曲と同じ。弦楽合奏を中心に管楽器とティンパニが効果的に使われ、クライマックスでは主題をコラル風に掲げて壮大な響きを築く。

楽器編成:ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、テューバ1、ティンパニ、弦楽5部。

## ■ ウォルトン:戴冠行進曲《宝玉と勺杖》

ベンジャミン・ブリテン(1913-76)と並んで、20世紀中葉の英国を代表する作曲家ウィリアム・ウォルトン(1902-83)。イングランド中部オールダムの中流家庭に生まれ、オックスフォード大学クライスト・チャーチ・カレッジ附属聖堂の少年合唱団に入った。同大学に進学するが、学業になじめず中退する。その後、音楽大学に転じることもなく、大学在学中に知遇を得た富豪シットウェル家の援助を受けながら、独学で作曲技法を身に付けた。前衛詩に音楽を付けた洒落な《ファサード》、パウル・ヒンデミット(1895-1963)の独奏で初演されたヴィオラ協奏曲、斬新な技法を駆使したオラトリオ《ベルシャザールの饗宴》、雄渾な楽想と堅固な構成の交響曲第1番で名声を博す。1937年には国王ジョージ6世(在位1936-52)の戴冠式のために行進曲《宝冠》を書き、王室にも認められた。

1953年6月2日、そのジョージ6世の長女エリザベス2世(在位1952-2022)の戴冠式がロンドンで挙行された。ウォルトンが祝賀の一環に書いたのが、《宝玉と

勺杖》である。宝玉とは王冠に嵌められた宝石、勺杖とは王の権威を示す杖であり、ウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の史劇『ヘンリー5世』の中でも言及されている。初演は戴冠式のために特別に編成された管弦楽団をエイドリアン・ポールト(1889-1983)が指揮して、ウェストミンスター寺院における戴冠式の式典で行われた。曲はエリザベス2世に献呈されている。

曲は短い華やかなトランペットのファンファーレで始まり、シンコーションが多用されたホ長調の軽やかな行進曲が続く。トリオはエルガーの《威風堂々》第1番や第4番の流れを感じさせる典雅な旋律で、弦楽合奏中心に始まり、徐々に他の楽器が加わっていく。ファンファーレに続いて行進曲が繰り返され、種々の打楽器が打ち鳴らされる中、トゥッティで華々しく終わる。

楽器編成:ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット3、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、テューバ1、ティンパニ、シンバル小太鼓、タンバリン、ハーブ、弦楽5部。

## ■ ウォルトン:交響曲第2番

第2次世界大戦後、ウォルトンはアルゼンチンで知り合って結婚したスザンナ夫人と、イタリア・ナポリの沖合にあるイスキア島に移住する。ウォルトン後半生の作品の多くが、この風光明媚な地中海の島の寓居から生まれた。

1950年代半ば、ウォルトンに作曲の委嘱が2つ届く。1つはハンガリー出身の名指揮者ジョージ・セル(1897-1970)が音

楽監督を務める米国のクリーヴランド管弦楽団の創立40周年(1958年)の記念作品。もう1つは市制750年を(1957年)を迎える英国・リヴァプール市のフィルハーモニー協会からの祝賀作品であった。

前者の作曲は順調に進んで《管弦楽のためのパルティータ》という傑作となり、セル指揮クリーヴランド管弦楽団によって1958年1月に初演された。しかし後者

の作曲は難航する。結局、3楽章から成る比較的短い交響曲第2番が完成したのは1960年で、リヴァプール市制750年を3年も超過していた。委嘱者である協会は初演をロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団に行わせるという条件で、大幅な遅れを容認した。こうして初演はジョン・プリッチャード(1921-89)指揮の同管弦楽団によって1960年9月2日にエディンバラ音楽祭で行われた。

ノーノ、クセナキス、シュトックハウゼン、ペンデレツキらの前衛音楽が全盛の当時、調性に基づくウォルトンの作風は批評家たちに時代錯誤と受け取られた。また、初演直後から「技巧に走りすぎ楽想が貧弱」と評される。そのためか、作曲者の指揮でレコードを制作する計画は立ち消えになってしまった。しかし《管弦楽のためのパルティータ》を初演したセルは交響曲第2番を高く評価し、同曲の米国初演(1961年1月)と初録音をクリーヴランド管弦楽団と行っている。3管編成にハーブ、ピアノ、チェレスタと多彩な打楽器群が加わり、管弦楽法は一段と洗練され、ドビュッシーやラヴェルを想起させるところもある。長く交響曲第1番の人気の陰に隠れていたが、近年再評価が進み、演奏頻度も上がりつつある。

### 第1楽章 アレグロ・モルト

2つの主題を持つソナタ形式の楽章で、怒りと焦燥が荒れ狂う。4楽章制の交響曲のアレグロとスケルツォを兼ねる内容である。不安げに疾走する弦とハーブとチェレスタの短い導入に続いて短い主題が繰り返される。さまざまな楽器の組み合わせで音楽は浮動しながら進む。金管と打楽器の連打が、時には暴力的なまでに音楽を高揚させる。随所に現れるピア

ノの効果的な使用は、ストラヴィンスキーの《3楽章の交響曲》を彷彿させる。

### 第2楽章 レント・アッサイ

三部形式。楽想の上でウォルトンの歌劇《トロイラスとクレシダ》(1954年初演)との関係が深い。シェイクスピアの同名の戯曲に基づく、古代ギリシアのトロイ戦争を舞台にした悲恋の物語。王子トロイラスを待ちわびる神官の娘クレシダの、憧れと不安が投影された緩徐楽章である。抒情的な主題がファゴットをはじめとする木管楽器によって担われ、とりわけファゴットとイングリッシュ・ホルンとオーボエの三重奏が美しい。クラリネットとファゴットの静かな歩みで始まる中間部を経て、再現部では独奏ホルンの周辺を弦、木管、チェレスタと2台のハーブが上下行を繰り返す。劇的な高揚の後、分割されたチェロとコントラバスの静かな響きで終わる。

### 第3楽章 パッサカリア:主題と変奏、フガート、コーダ(スケルツァンド)

12音を使用した主題と10の変奏によるパッサカリアで、後半にはフガートとコーダが置かれている。金管楽器群による重々しい主題の提示に続き、精緻な管弦楽法による短い変奏が次々と繰り返され、多様なモチーフは短いフガートで纏めあげられていく。神秘的な経過句に続き、輝かしい金管楽器群のファンファーレと叩きつけるような和声で曲は結ばれる。

楽器編成:フルート3(ピッコロ持替1)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン持替1)、クラリネット3(E5管クラリネット持替1、バス・クラリネット持替1)、ファゴット3(コントラ・ファゴット持替1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、タンバリン、グロックンシュピール、ヴィブラフォン、シロフォン、鐘、ミタリードラム、ハーブ2、ピアノ、チェレスタ、弦楽5部。



**PHOTO 1** 6月東京定期演奏会は、意外にも東京定期初登場となる大植英次さんが指揮。前半はワーグナーの《トリスタンとイゾルデ》より前奏曲と愛の死、そして阪田知樹さんを迎えてのプロコフィエフのピアノ協奏曲第2番。後半はチャイコフスキーの《悲愴》をお届けしました。前半終了後のバックステージでお二人をばしゃり



**PHOTO 2** オークストラ・キャラバンで、14日は石巻に、16日は奥州へ。お客様がとても温かく迎え入れてくださり、出演者一同、大感激。終演後の海老原光さん、江原陽子さん、楽屋の前でピース!



**PHOTO 3** 6月20日～23日は杉並区の音楽鑑賞教室! 杉並区の小中学生の皆様にご来場いただきました。指揮者の阿部未来さんとテノールの芹澤佳通さんを楽屋前でバシャリ。元気な生徒の皆さんに、オーケストラもエネルギーをたくさんいただきました!



**PHOTO 4** 6月29日杉並公会堂シリーズと30日さいたま定期演奏会は、下野竜也さんと角野隼斗さんとご一緒しました。楽員も一緒に、演奏後の和やかなショットをどうぞ! \* (協奏曲はのぞく)



**PHOTO 5** 7月横浜定期演奏会は、川瀬賢太郎さんと菊池洋子さんと共に、モーツァルトの《フィガロの結婚》序曲、ピアノ協奏曲第25番そしてストラヴィンスキーの《春の祭典》お届けしました。今回からシーズン・ファイナル・パーティも復活! 川瀬さん、菊池さん、コンマスの田野倉のスリーショット!



**PHOTO 6** 7月東京定期演奏会は、広上淳一マエストロによるオペラ・シリーズ。レオンカヴァッロの《道化師》を演奏会形式でお楽しみいただきました。こちらもシーズン・ファイナル。9月からの定期演奏会もよろしく願いいたします!\*

\*印のアーカイブ配信はMember's TVU CHANNELで。  
<https://members.tvuch.com>



2023

# 第九特別演奏会



指揮: 広上 淳一 [フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)]

**12/16 土 17:00**  
[横浜みなとみらいホール]  
【第393回横浜定期演奏会】

ソプラノ: 竹下 みず穂 アルト: 但馬 由香  
テノール: 工藤 和真 バリトン: 池内 響  
合唱: 東京音楽大学 (12/16)  
日本フィルハーモニー協会合唱団 (12/17)

**12/17 日 14:00**  
[サントリーホール]

.....  
ケルビーニ: 歌劇《アナクレオン》序曲  
ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》



指揮: 小林 研一郎 [桂冠名誉指揮者]

**12/21 木 19:00**  
[横浜みなとみらいホール]

パイプオルガン: 石丸 由佳  
ソプラノ: 小川 葉奈 (12/21～25)  
市原 愛 (12/26、27)

**12/22 金 19:00**  
[サントリーホール]

アルト: 山下 牧子  
テノール: 錦織 健 (12/21～25)  
笛田 博昭 (12/26、27)

**12/25 月 19:00**  
[東京芸術劇場]

バリトン: 大沼 徹 (12/21、25)  
青戸 知 (12/22)  
青山 貴 (12/26、27)

**12/26 火 19:00**  
[東京芸術劇場]

合唱: 東京音楽大学 (12/21、22)  
武蔵野合唱団 (12/25)  
日本フィルハーモニー協会合唱団 (12/26、27)

**12/27 水 19:00**  
[東京芸術劇場]

.....  
J.S.バッハ:  
高き天よりわれは来たれ、主よ、  
人の望みの喜びよ、  
トッカータとフーガBWV565  
(以上3曲パイプオルガン独奏)  
ベートーヴェン: 交響曲第9番《合唱》

チケット料金  
(全席指定・消費税込)

S ¥9,000 A ¥7,500 B ¥7,000 C ¥6,000  
Ys (25歳以下) ¥3,500 Gs (65歳以上) ¥6,000 (12/16除く)

2023年  
9月15日(金) 発売

# あらゆる人々へ、あらゆる世代へ、 あらゆる地域へ、世界へ

## インターンシップ生の受け入れ

### 日本フィルは音楽業界を目指す人を応援しています

日本フィルの夏の風物詩とも言える「夏休みコンサート」は49回を数え、オーケストラ公演とは別に、ロビーでの「ウェルカムコンサート」、出演者が子どもたちの質問に答える「懇談会」、「楽員によるサイン会」など、ご家族で楽しめる様々なロビーイベントを開催しています。コロナ禍ではイベントの開催を見送っていましたが、今年は4年ぶりにイベントが復活!それに伴い、演奏会の運営を体験するインターンシップ生の受け入れも再開しました。

久しぶりのイベント開催、そして学生の募集に、どれだけの応募があるだろう...という不安な気持ちは杞憂に終わり、なんと80名のご応募をいただきました。そして今年は、音楽はもちろん、教育や政治経済など様々な分野を専攻する18名のインターン生にご参加いただくことになりました。

事前の研修では、日本フィルの基本理念、日頃の活動、各部署の担当者からそれぞれの仕事の役割をお話しし、参加者も今回応募した経緯や意気込みを話してくれました。これらの研修を経て、公演当日はインターン生が大活躍!ホールごとに異なるロビー条件を踏まえてイベントの開催場所を決め、お客様の動線をイメージしながら掲示物を貼るなど、皆で積極的に意見を出し合い盛り上げていきました。

オーケストラの演奏会を開催するうえで必要とされる細やかな配慮、お客様の笑顔や感謝の言葉、子どもたちの元気な歌声。これらは実際に運営に関わらないと感じることのできないことばかりです。過去にはインターンシップ卒業生の中から、実際に音楽業界に携わる人材も多数輩出していますが、今回出会った学生たちもこの経験を活かしてそれぞれの分野で活躍してくれることを願っています。



▲ウェルカムコンサートの準備



▲お客様のご案内



▲サイン会の列整理



▲イベント開催のアナウンス

# 2023年 秋季セット券

S席セット ¥20,000 A席セット ¥16,000

好評発売中!

※各種会員の特典は併用できません

## 第401回名曲コンサート

サントリーホール

2023年 9月10日(日) 14:00 開演

指揮:小林 研一郎[桂冠名誉指揮者]  
ヴァイオリン:高木 凜花子 オルガン:石丸 由佳  
サラサーテ:ツイゴイネルワイゼン  
サン=サーンス:交響曲第3番《オルガンつき》  
ハ短調 op.78 他



©Naoya Yamaguchi

1回券 料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P ¥4,000  
Gs (65歳以上) ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

好評発売中!

## 第402回名曲コンサート

サントリーホール

2023年 10月22日(日) 14:00 開演

指揮:カーチュン・ウォン[首席指揮者] ピアノ:亀井 聖矢  
ショパン:ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 op.11  
ブラームス:交響曲第1番 ハ短調 op.68



©Angie Kremer

©T.Tairadate

1回券 料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P ¥4,000  
Gs (65歳以上) ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

好評発売中!

## 第252回芸劇シリーズ

東京芸術劇場

2024年 1月14日(日) 14:00 開演

指揮:川瀬 賢太郎 ピアノ:清水 和音  
チャイコフスキー:歌劇《エフゲニー・オネーギン》より「ボロネーズ」  
チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op.23  
J.シュトラウスII世:ポルカ《ハンガリー万歳》op.332  
ブラームス:ハンガリー舞曲第5番  
J.シュトラウスII世:ワルツ《南国のバラ》op.388  
レスピーギ:リュートのための古風な舞曲とアリアより「シチリアーナ」  
J.シュトラウスII世:喜歌劇《こうもり》序曲



©Yoshinori Kurosawa

©Mana Miki

1回券 料金 S ¥7,000 A ¥5,500 B ¥5,000 C ¥4,000  
Gs (65歳以上) ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

2023年  
10月4日(水) 発売

## 第403回名曲コンサート

サントリーホール

2024年 1月21日(日) 14:00 開演

指揮:カーチュン・ウォン[首席指揮者] ピアノ:上原 彩子  
伊福部昭:舞踊曲《サロメ》より「7つのヴェールの踊り」  
ラフマニノフ:バガニーニの主題による狂詩曲 op.43  
ベルリオーズ:幻想交響曲 op.14



©Angie Kremer

©武藤 幸

1回券 料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P ¥4,000  
Gs (65歳以上) ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

2023年  
10月4日(水) 発売